



2022年2月14日

各 位

会社名 ミヨシ油脂株式会社
 代表者名 代表取締役社長兼CEO 三木逸郎
 (コード: 4404 東証第一部)
 問合せ先 上席執行役員管理本部長 小田島淳悦
 (TEL. 03-3603-1111)

中期経営計画に関するお知らせ

当社は、2022年度から2024年度の中期経営計画を策定し、本年度よりスタートしています。前中期計画(2019年度～2021年度)の総括と、新しい中期経営計画についてお知らせします。

1. 前中期経営計画(2019年度～2021年度)の総括

当社グループは、食品事業と油化事業を二本柱とする強固な経営基盤を構築すべく、2019年に中期経営計画を策定しました。この計画において当社は、2021年までに連結売上高506億円、連結営業利益17億円、ROE5.0%以上を目標としていましたが、2020年、世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症が、我が国並びに世界経済に及ぼした深刻な影響、また、その対応から生まれた新しい生活様式など消費行動の大きな変化、さらに急激な原料高騰が当社業績にも大きく影響した結果、以下のとおり推移しました。

(単位: 百万円)

	2019年度実績 (1年目)	2020年度実績 (2年目)	2021年度実績 (最終年度)	2021年度目標 (2018年時点)
連結売上高	44,941	43,080	47,476	50,600
連結営業利益	1,194	1,126	698	1,700
ROE	5.4%	4.2%	2.7%	5.0%以上
設備投資 (3ヶ年累計)	5,881			7,000
研究開発投資 (3ヶ年累計)	4,231			4,500

2. 2030年に向けた経営構想

暮らしの未来をつくる。



当社は今年、創立101年目をスタートしました。1921年、繊維用工業石鹼をつくる会社として創立、それから1世紀の間、私たちは油脂の可能性に着目し、暮らしのさまざまな分野でその活用の道を拓いてきました。創業当初から胸にあったのは、「良きものづくり」を通して健やかな社会の発展に貢献したいという思い。その思いは、「人によし、社会によし、未来によし」という、今の経営理念に受け継がれています。創立101年目にあたり、この経営理念のもと、2030年に向けた経営構想とタグラインを策定し、食品事業と油化事業を成長・発展させることで、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

経営構想は、食品と油化の二つの事業を柱に、環境変化に左右されない“持続的成長基盤”を確立させ、その成長基盤を“土台”とした両事業の継続的な成長と発展によって、2030年までに「営業利益 34 億円」「ROE 8%」を目指します。

2030年に向けた経営構想の基本コンセプト

食品・油化事業のスパイラルアップ

〈 成長&発展 〉

- ① 環境変化に左右されない“持続的成長基盤”を新中計（～2024年）の間に確立する
- ② 持続的成長基盤を“土台”にして食品事業、油化事業の成長と発展（～2030年）

食品事業 Foods Division

発展 長期（2025年～）

プラントベースFoodsの市場創造

新食品産業を発展させるプラットフォーム創成

次世代マーガリンの開発

成長 短中期（～2024年）

プラントベース素材によるグローバル展開

フードロス低減に向けた提案の強化

ライフケアに役立つ機能性食品の創出

Oiles Division 油化事業

発展 長期（2025年～）

天然素材使った洗浄剤（香・化）の開発強化

主要製品の天然由来原料ヘシフト加速化

成長 短中期（～2024年）

ローション剤のグローバル展開の推進

イオン液体技術の開発育成

香粧品素材分野の拡充



人を大切に、そして組織力を強化

- 社員の成長機会と場の提供、人事制度改革など
- ダイバーシティ&インクルージョン
- 食品と油化の垣根を越えたコラボ活発化

マーケティング&イノベーションに優れた会社になる

- 生活者視点、顧客体験、提案営業など
- ブランディングマネジメントの定着化
- 多品種少量対応、ECビジネスの活用

成長投資を続ける

- 成長原資を手厚くして将来のキャッシュを創出
- 戦略投資（教育投資、マーケ投資、DX投資）の増強
- 大型投資（海外進出、工場再構築、基幹システム）の実行

そのために、全社で取り組む8つの基本的事業領域を明確にしました。

- 〈事業領域〉 ・グリーンライフ事業 ・海外事業 ・ライフケア事業 ・製菓製パン事業
 ・原料事業 ・DtoC事業 ・コンシューマー事業 ・外食産業事業

2030年までに全社で目指す基本的事業領域



また、その経営構想に基づく“2030年のありたい姿”を、以下の通りまとめました。

(1) 食品事業のありたい姿

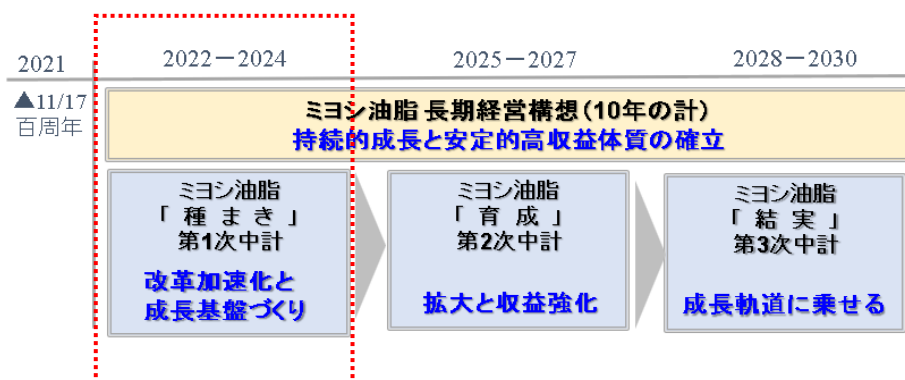
- ① プラントベースの食品産業を発展させるプラットフォームを創ります。
 - ・動物性油脂に依存する食品のプラントベース化を促進する
 - ・天然素材を使った製品ラインアップを拡充する
 - ・世界各国のプラントベース食品産業発展に寄与する
- ② 持続可能な食品消費を支援します。
 - ・自社製品の使用期限を延ばし、パン・製菓業界のフードロスに貢献する
 - ・冷凍食品市場に適した製品を開発し、おいしさの長持ちに寄与する

- ・フードロス削減の手法を構築し、食品業界の啓蒙につなげる
- ③ 食で暮らしを豊かにする「ライフケア」に役立つ機能性食品を創ります。
- ・少子高齢化の社会で、介護する人、される人のどちらも幸せに暮らせる食品を開発する
 - ・油脂の可能性を引き出し、アスリート向けの食品を開発する
- (2) 油化事業のありたい姿
- ① ナチュラルベースな製品で「暮らしの安心」を支援します。
- ・化粧品・香粧品市場に天然素材を主体にした製品を投入する
 - ・天然素材を使ったローション剤を開発、安心安全で、肌にやさしいティッシュペーパーを、世界中の人々が日常的に使えるようにする
- ② 世界の人々の暮らしを「環境の変化」から守ります。
- ・紫外線吸収剤の開発を進め、紫外線から生活者の安心を守る手段を世界中に広める
 - ・環境材料製品の海外展開を通じて、安心安全な生活環境を広げる

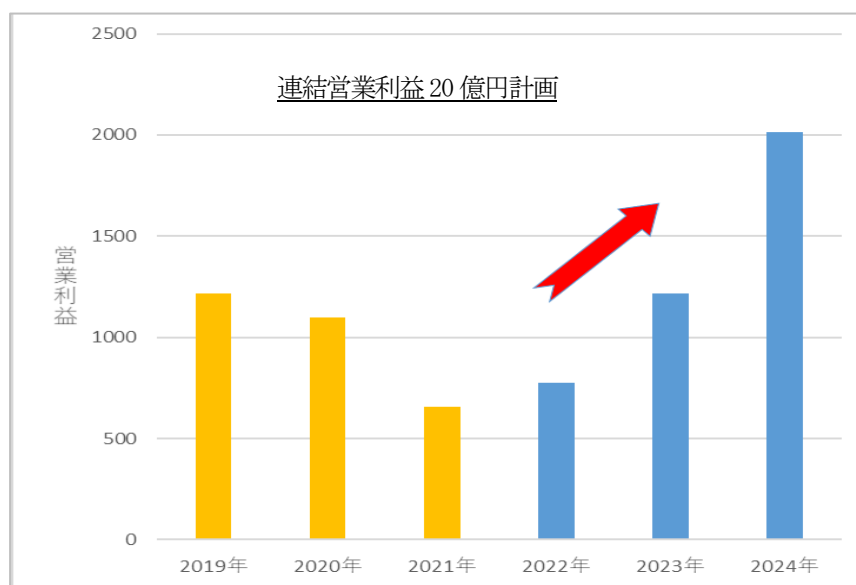
3. 新中期経営計画 (2022~2024年)

2022年を始期とする3年間は、2030年に向けた経営構想の“種まき”の期間と位置づけ、「人を大切に、そして組織力を強化する」「マーケティング&イノベーション」に優れた会社になる」「成長投資を続ける」ことで“持続的成長基盤づくり”を進めます。

中期経営計画 (2022~2024年度) の位置づけ



- ・数値目標 (2024年) 連結売上高 500億円 連結営業利益 20億円
- ・ROE (2024年) 5.6%
- ・投資目標 (2022~2024年) 設備投資 106億円 研究開発費 50億円

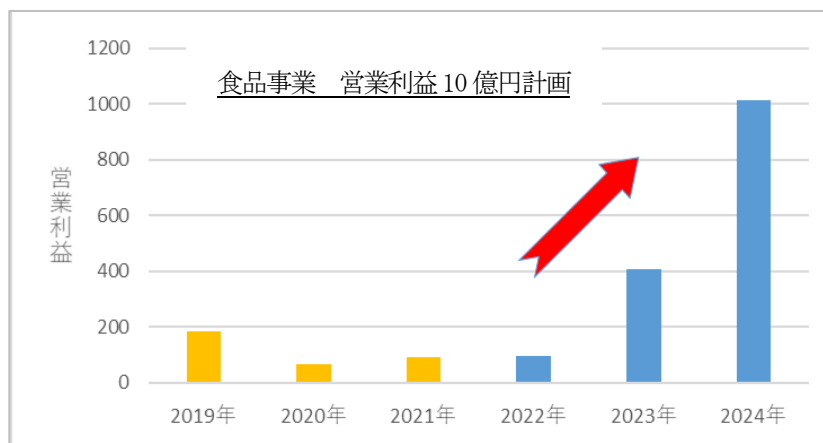


(1) 食品事業の主な目標

これからの時代の「おいしさ」「健康」「食生活の変化」で持続可能な社会を実現します。

- ・プラントベース素材によるグローバル展開
- ・フードロス低減に向けた提案の強化
- ・ライフケアに役立つ機能性食品の創出

・食品事業数値目標（2024年） 売上高346億円 営業利益10億円

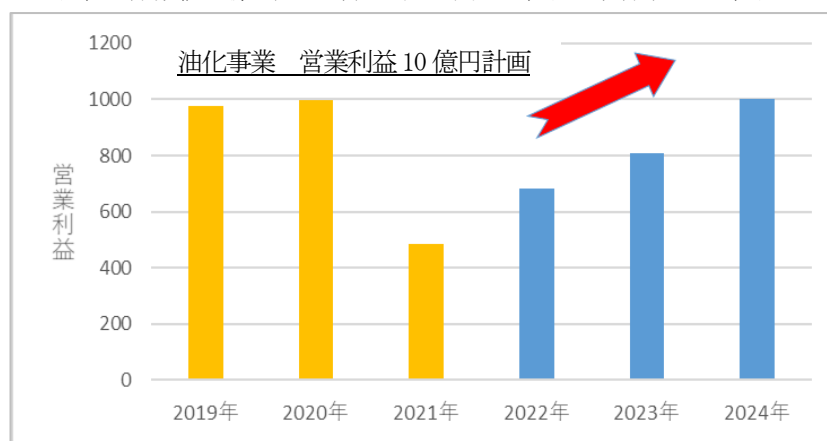


(2) 油化事業の主な目標

これからの時代へ、ボタニカルを提唱した技術や製品を創出することで、持続可能な社会を実現します。

- ・ローション剤のグローバル展開の推進
- ・イオン液体技術の開発育成
- ・化粧品素材分野の拡充

・油化事業数値目標（2024年） 売上高150億円 営業利益10億円



4. 配当性向

当社がかねてより、中長期的な安定配当を維持継続することが株主様への利益還元につながると考え、業界全体の経済情勢や当社の業績などを総合的に勘案して配当金額を決定しています。

配当性向は、30%以上を継続しています。

〈配当性向〉	・ 第 92 期(2017 年)	51.9%	(1 株あたり 40 円)
	・ 第 93 期(2018 年)	59.6%	(1 株あたり 40 円)
	・ 第 94 期(2019 年)	31.3%	(1 株あたり 40 円)
	・ 第 95 期(2020 年)	40.2%	(1 株あたり 40 円)
	・ 第 96 期(2021 年)	60.3%	(1 株あたり 40 円)

(注) 本資料に記載されている将来の見通しに関する事項については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、将来の業績を保証するものではなく、実際は今後の様々な要因によって変動する可能性があります。

以 上